

基本政策	政策	施策	事務事業（○は計画本体に掲載している主な事務事業） ※○以外については、「施策を推進する経常的な事務事業一覧」に取組等を掲載
基本政策 4 活力と魅力あふれる力強い都市づくり			
政策 4-9 戦略的なシティプロモーション			
施策 4-9-1 都市イメージの向上とシビックプライドの醸成			
○ シティプロモーション推進事業			
○ 国際交流推進事業			
国際施策推進事業			
交流推進事業			
○ 国際交流センター管理運営事業			
○ 市民文化大使事業			
施策 4-9-2 川崎の特性を活かした観光の振興			
○ 観光振興事業			
○ 産業観光推進事業			
○ 市制記念花火大会事業			
○ 競輪場整備事業			
○ 競輪等開催・運営事業			

施策評価シート(第2期実施計画 中間評価)

1 施策の概要							
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)		活力と魅力あふれる力強い都市づくり				
	政策(2層)		戦略的なシティプロモーション		計画当初値(H27年)	直近実績値(R1年)	最終目標値(R7年)
	市民 実感指標	①	市に魅力や良いイメージがあると感じている人の割合	40.7%	39.0%	50.0%	
施策(3層)	施策コード		施策名				
	40901000		都市イメージの向上とシビックプライドの醸成				
担当	組織コード		所属名				
	170700		総務企画局シティプロモーション推進室				
関係課	総務企画局総務部庶務課、市民文化局市民生活部(交流推進担当)、市民文化局市民文化振興室						
施策の主な課題	●「川崎市シティプロモーション戦略プラン」に基づき、市民の川崎への愛着・誇りの醸成や対外的な認知度・イメージの向上のための施策・事業を推進していますが、市の魅力や施策・取組等についての情報が市民等に十分届いていない状況にあるため、さまざまなメディアやブランドメッセージを活用し、市の多彩な魅力をより効果的に発信していく必要があります。						
施策の方向性	●市内外に向けた、さまざまなメディアの効果的活用による、本市の多彩な魅力の情報発信の強化 ●ブランドメッセージを核とした、多様な主体を巻き込んだ民間発の取組を伴うシビックプライドの醸成 ●これまで良好な関係を築き上げてきた海外都市等とのお互いの強みや特性を生かした更なる交流の推進						
直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める						

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析										
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			1期策定時	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位等	
			2期策定時							
成果指標	1	シビックプライド指標 市民の市に対する「愛着」に関する平均値	6.0 (H26)	目標値a 実績値b	6.2 5.4	6.3 5.4	6.4 -	6.5 -	点	
		指標の説明 都市イメージ調査において「愛着」に関して3つの質問項目を設け、その評価を1点(最低点)~10点(最高点)とし、各項目の平均値を得点として算出	5.9 (H28)	達成率(b/a) 指標達成度	87.1% C	85.7% C	- -	- -	↑ 増減	
		シビックプライド指標 市民の市に対する「誇り」に関する平均値	5.0 (H26)	目標値a 実績値b	5.2 4.8	5.3 4.7	5.4 -	5.5 -	点	
	2	指標の説明 都市イメージ調査において「誇り」に関して3つの質問項目を設け、その評価を1点(最低点)~10点(最高点)とし、各項目の平均値を得点として算出	4.9 (H28)	達成率(b/a) 指標達成度	92.3% C	88.7% C	- -	- -	↑ 増減	
		隣接都市における、川崎市に良いイメージがあると感じている人の割合	50.3 (H26)	目標値a 実績値b	51.5 41.5	52.0 35.5	52.5 -	53.0 -	%	
		指標の説明 都市イメージ調査において、「川崎市のイメージについて、どのように思いますか」という質問に対して、その評価を1点(最低点)~10点(最高点)とし、隣接都市居住者のうち6点~10点を選んだ割合	42.0 (H28)	達成率(b/a) 指標達成度	80.6% C	68.3% C	- -	- -	↑ 増減	
	4	指標の説明	目標値a							
			実績値b							
			達成率(b/a) 指標達成度							
	数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
	1	ブランドメッセージの認知度			実績	66.1	72.1	-	-	%
		指標の説明	都市イメージ調査において、「川崎市のブランドメッセージのロゴを見たことがありますか」という質問に対して「見たことがある」と答えた人の割合							
2	指標の説明			実績						
	指標の説明									
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)			●TwitterやInstagramなどのSNSの活用や、PR委託業者を活用した海外メディアへのアプローチ、民間発の取組である都市ブランド推進事業の実施などにより、市内外に向けて、本市の多彩な魅力を効果的に情報発信・PRすることができました。							
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)			●都市イメージ調査によると、第1期策定時と比較して、令和元年度の市民による「愛着」の数値は0.6ポイント低下、「誇り」の数値は0.3ポイント低下しており、令和元年度の調査結果では、若年層ほど低く、高齢者層ほど高くなる傾向にあります。 ●また、第1期策定時と比較して、令和元年度の隣接都市からの本市のイメージは14.8ポイント低下しており、イメージが低下した原因を特定することは難しいものの、市内で発生した人々の印象に強く残る事件・事故が影響している可能性が考えられます。 ●今後は、引き続き、本市の魅力的な情報とあわせ、施策や事業、各種統計データ等に基づいた情報を多様な手法を活用し発信していく必要があります。 ●ブランドメッセージのロゴについては、様々な媒体や取組を通じて認知度の向上に努めた結果、都市イメージ調査では、平成30年度66.1%、令和元年度72.1%と認知度が上昇しており、市民の目に触れる機会が増えているなどのPR効果が確認できました。							

※ 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 1期策定時以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~1期策定時未満、d. 目標達成率60%未満】
 (第2期実施計画から新たに設定した指標は、指標達成度b又はcにおける「1期策定時」を「2期策定時」に読み替えるものとする)

※ 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価

番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額 (計画事業費)	決算額			
H30年度									
R1年度(決算額は見込)									
R2年度									
R3年度									
1	40901010 シティプロモーション推進事業	その他	本市の多様な魅力をさまざまなメディアやブランドメッセージを効果的に活用し、市内外や海外に情報発信するとともに、民間活力を活かした地域資源の発掘や新たな魅力づくり、連携等により、川崎の魅力をより高め、市民のシビックプライドを醸成します。	<ul style="list-style-type: none"> ●TwitterなどのSNSを活用した情報発信 ●PR委託業者を活用した本市の魅力発信 ●ブランドメッセージを活用した効果的な情報発信 ●都市ブランド推進事業の実施支援、効果的な発信(事業実施数 H30:5事業、R1:5事業) 	32,788	29,585	3	B	II
					31,812	30,086	4	B	II
					29,928	-	-	-	-
					32,788	-	-	-	-
2	40901020 国際交流推進事業	イベント等	海外からの視察受入や国際交流協会との連携により、行政だけでなく市民による国際交流を推進します。	【H30】本市代表団のウーロンゴン市派遣 【H30】ウーロンゴン市長の本市訪問 【R1】本市代表団のボルチモア市派遣	38,536	32,089	3	B	I
					42,239	32,532	3	B	I
					41,944	-	-	-	-
					44,539	-	-	-	-
3	40901050 国際交流センター管理運営事業	施設の管理・運営	市民の国際理解の増進及び国際友好親善の発展等に寄与するため、「国際交流センター」を運営します。	<ul style="list-style-type: none"> ●国際理解を深める講座や国際交流を推進する事業等の開催及び国際交流に取り組む市民団体等への支援や施設の貸出を実施 	167,570	165,403	3	B	II
					169,349	182,482	3	B	II
					184,580	-	-	-	-
					169,570	-	-	-	-
4	40901060 市民文化大使事業	その他	文化芸術・スポーツ分野で活躍する本市にゆかりのある方々を市民文化大使に任命し、国内外の活動で連携することにより、市の魅力をPRし、イメージアップを図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ●市民文化大使自身の活動や市の事業を通じた、本市の魅力のPRやイメージアップの実施 	1,851	0	3	B	I
					2,077	481	3	B	I
					1,738	-	-	-	-
					2,134	-	-	-	-
5					-	-	-	-	-
					-	-	-	-	-
					-	-	-	-	-
					-	-	-	-	-

※ 事業の達成度【1. 目標を大きく上回った、2. 目標を上回った、3. ほぼ目標どおり、4. 目標を下回った、5. 目標を大きく下回った】

※ 施策への貢献度【A. 貢献している、B. やや貢献している、C. 貢献度合いが薄い】

※ 今後の事業の方向性【I. 現状のまま継続、II. 改善しながら継続、III. 事業規模拡大、IV. 事業規模縮小、V. 事業廃止、VI. 事業終了】

4 施策の進捗状況

施策の進捗状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
	A. 順調に推移している (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成の可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	C	<ul style="list-style-type: none"> ●配下の事務事業の取組のうち、シティプロモーション推進事業については、SNSやPR委託業者などを活用した情報発信・魅力発信を行いました。当該事業の成果指標は人々の印象に残る大きな事件・事故等に影響を受けやすい指標であることから、事業の実績が現れず、目標を下回りました。その他の事務事業については、ほぼ掲げた目標どおりに進捗しています。 ●様々なメディアを効果的に活用し、本市の多様な魅力を市内外に情報発信するなどの取組を進めてきましたが、都市イメージやシビックプライドに係る成果指標は、目標達成には至っておらず、取組による効果があらわれていない状況です。 ●ブランドメッセージの取組については、様々な媒体を活用し展開したことにより、市民によるロゴの認知度の向上につながっており、順調に推移しています。

5 今後の方向性

今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II	<ul style="list-style-type: none"> ●現状では事業の効果が成果指標にはあらわれていないものの、都市イメージの向上とシビックプライドを醸成させる取組については、中長期的な視点で捉えていく必要があることから、民間事業者等と連携し、複数の広報媒体を活用したメディアミックス強化による広報の付加価値の向上や情報拡散に向けた広報を強化するなど、ターゲットを意識した効果的・効率的な手法等を視野に入れながら、引き続きプロモーション活動を推進します。 ●ブランドメッセージについては、あらゆる施策・取組を通じて展開し、都市ブランドの強化とともにシビックプライドの醸成を目指します。

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる施策については、かつこ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国)による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載							
	40901010	シティプロモーション推進事業				有							
担当	組織コード	所属名											
	170700	総務企画局シティプロモーション推進室											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	—	—		その他	—								
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)												
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン, まち・ひと・しごと創生総合戦略, 情報化推進プラン, 文化芸術振興計画, シティプロモーション戦略プラン, 新・かわさき観光振興プラン												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名									
	取組1(3)市民との積極的な情報共有の推進			1 効果的な情報発信の取組推進									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度					
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	32,788	29,585	32,788	31,812	30,086	32,788	29,928		32,788		
		国庫支出金	0	—	0	0	—	0	0		0		
		市債	0	—	0	0	—	0	0		0		
		その他特財	290	—	290	840	—	290	858		290		
		一般財源	32,498	—	32,498	30,972	—	32,498	29,070		32,498		
	人件費 [*] B	45,738	45,738	49,277	49,277	49,277	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	78,526	75,323	82,065	81,089	79,363	32,788	29,928	0	32,788	0	0	
	人工(単位:人)	5.4		5.8									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、海外を含む市外の方	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	戦略的な情報発信等により、市民のシビックプライドの醸成及び対外的な都市イメージの向上を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	本市の多様な魅力を様々なメディアやブランドメッセージを効果的に活用し、市内外、更には海外に情報発信します。民間活力を活かした地域資源の発掘や新たな魅力作り、連携等により、川崎の魅力をより高め、市民のシビックプライドを醸成します。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「シティプロモーション戦略プラン」に基づく取組の推進 ・第2次シティプロモーション推進実施計画に基づく取組の推進 ・情報発信の強化 ・各局のプロモーション支援 ②国内外に向けた、各種メディアの効果的活用によるシティプロモーションの推進 ・SNS、動画等を活用した魅力発信 ・PR会社等を通じた国内外への情報発信 ③ブランドメッセージ等を活用した効果的な情報発信及び民間活力と連携したPR事業の推進 ・スポーツパートナー等やパラムーブメントの取組との連携 ・民間主体の発信支援 ④都市ブランド推進事業の推進(7事業程度)	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	<p>さまざまなメディアを活用し、本市の多様な魅力を市内外に情報発信するなどの取組を進めてきましたが、成果指標(特に「隣接都市における、川崎市に良いイメージがあると感じている人の割合」)は、人々の印象に残る大きな事件・事故等に影響を受けやすい指標であることから、事業の実績が現れず、目標を下回りました。また、「愛着」や「誇り」に関する指標についても、数値の上昇には至りませんでした。</p> <p>①PR委託事業者との連携により、さまざまなメディアを活用して、効果的・効率的な広報活動を展開しました。また、カワサキハロウィン等のPR効果の高い事業を中心に、効果的なプロモーションにつながるよう助言・支援しました。</p> <p>②TwitterやInstagramなどのSNS、ヤフーニュースを活用するほか、PR委託業者を活用した海外メディアへのアプローチにより、本市の魅力発信を行いました。</p> <p>③ブランドメッセージについては、各図書館と連携したブックフェアの実施、iCONMとの連携によるポスター制作・掲出、川崎ルフトンと川崎小学校と連携したアートプロジェクトの展示、市内各イベントへの出展のほか、パラムーブメントのさまざまな取組とも連携しPRを行いました。民間活力と連携したPR事業の推進については、市民文化大使であるSHISHAMOや市内高校等と連携した等々力陸上競技場でのCM撮影の実施、カルビーと連携したご当地ポテトチップスによるコラボ企画の実施等を行いました。</p> <p>④都市ブランド推進事業について、本市の都市イメージの向上や愛着・誇りの醸成につながる5事業を選定し、実施支援や効果的な情報発信を行いました。</p>						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1 成果指標	シビックプライド指標 市民の市に対する「愛着」に関する平均値	目標	6.2	6.3	6.4	6.5	点
	説明 都市イメージ調査において「愛着」に関して3つの質問項目を設け、その評価を1点(最低点)~10点(最高点)とし、各項目の平均値を得点として算出	実績	5.4	5.4	—	—	

2	成果指標	シビックプライド指標 市民の市に対する「誇り」に関する平均値	目標	5.2	5.3	5.4	5.5	点
		説明 都市イメージ調査において「誇り」に関して3つの質問項目を設け、その評価を1点(最低点)~10点(最高点)とし、各項目の平均値を得点として算出	実績	4.8	4.7	—	—	
3	成果指標	隣接都市における、川崎市に良いイメージがあると感じている人の割合	目標	51.5	52	52.5	53	%
		説明 都市イメージ調査において、「川崎市のイメージについて、どのように思いますか」という質問に対して、その評価を1点(最低点)~10点(最高点)とし、隣接都市居住者のうち6点~10点を選んだ割合	実績	41.5	35.5	—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	総務省の平成29年版情報通信白書によると、国内におけるSNS利用率は、平成24年の41.4%から平成28年には71.2%に上昇しており、SNSを含む多様な情報媒体を活用した効果的な情報発信への対応が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 1 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	令和元年度:シティブロモーションチャレンジ研修を実施し、職員の広報マインドの醸成や広報力強化を図りました。 平成30年度:都市イメージ調査結果について各区と意見交換会を実施し、共通認識を図り区におけるプロモーション支援を行うなど、連携強化を図りました。 平成29年度:都市ブランド推進事業で、ブランドメッセージの積極的な使用を定めるなどの要綱改定を行いました。 平成28年度:関連部署による連携を強化し、各職位毎に必要な研修、効果的な時期等を検証し、研修の体系化を行いました。メディアコーディネーターを活用した研修や各事業の企画段階からの積極的な支援を行い、パブリシティ獲得に努めました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	市の魅力を発信するTwitterアカウントのフォロワー数は増加しており、市の情報を得たいと考える人のニーズは依然として高いものと考えます。また、今後は市の施策・取組等の情報発信力の更なる強化が必要であり、各部署と連携し、多様な手法を活用した効果的な情報発信を行うことで、都市イメージの向上及びシビックプライドの醸成を図っていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	c
	評価の理由	様々な媒体を活用した情報発信の取組を通じてブランドメッセージの認知度は上がった(平成30年度:66.1%⇒令和元年度:72.1%)ものの、シビックプライド指標等の成果指標は目標値に達していない状況です。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	ブランドメッセージの認知度の更なる向上や、シビックプライド指標の向上に向けて、より効果的な事業手法など、新たな取組を視野に入れながら進めていきます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	都市イメージの向上やシビックプライドの醸成に向けて、様々なメディアを効果的に活用し、本市の多彩な魅力を市内外に情報発信するなどの取組を進めており、現状では事業の効果が成果指標には現れず目標達成には至っていませんが、ブランドメッセージの認知度向上につながっているなど、様々な情報発信の取組に一定の効果はあったものと考えます。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かっこ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載							
	40901020	国際交流推進事業				有							
担当	組織コード	所属名											
	171100	総務企画局総務部庶務課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	—	—	—	イベント等	—								
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)												
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン, まち・ひと・しごと創生総合戦略, 文化芸術振興計画												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度					
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	38,536	32,089	44,539	42,239	32,532	41,938	41,944		44,539			
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	—	0	0		0		
		市債	0	—	0	0	—	0	0		0		
		その他特財	19,476	—	19,476	19,465	—	19,476	19,879		19,476		
		一般財源	19,060	—	25,063	22,774	—	22,462	22,065		25,063		
	人件費※ B	18,719	18,719	18,776	18,776	18,776	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	57,255	50,808	63,315	61,015	51,308	41,938	41,944	0	44,539	0	0	
	人工(単位:人)	2.21		2.21									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、企業、姉妹・友好都市をはじめとする海外都市	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	海外都市が持つ特性を活用し、お互いのメリットを明らかにした互恵関係が構築できる交流事業を実施するとともに、地域における国際交流を推進します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	姉妹友好都市提携から周年記念を迎える時期を捉えて、今後どのような分野で交流をより進めていくか確認書などで明らかにしています。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①海外からの視察受入や(公財)国際交流協会と連携した国際交流の推進 ・アメリカ・ボルチモア市姉妹都市提携40周年記念事業	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①ボルチモア市との周年記念事業については、10月に本市代表団を同市に派遣しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	説明	目標					
		実績			—	—	
2	説明	目標					
		実績			—	—	
3	説明	目標					
		実績			—	—	
4	説明	目標					
		実績			—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	本市における外国人住民人口は4万人を超え、また、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を迎え、外国人観光客等の本市を訪れる外国人の増加が見込まれることから、これまで以上に本市の国際化の取組を進めていく必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 30 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H30年度:韓国富川市との職員相互派遣について実施方法を見直し、約1年間の派遣(1名が参加)としていたものを、研修分野を特定した短期派遣(複数名が参加)とすることしました。 H25年度:韓国富川市との職員相互派遣について、派遣及び受入を毎年実施していたものを、経費や効果の点から、「職員相互派遣協定」を見直し、隔年ごとに実施することになりました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を直前に控え、今後、更なる訪日外国人旅行者の増加が見込まれ、また、市内外国人市民も増加・多様化しており、本市が進める国際施策の推進には市民、市民団体等を含めた市全体での取組が必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	姉妹・友好都市等との継続的な交流により、地域における国際交流が推進されました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	交流事業については、相手方との調整により事業内容やスキームが決定するため、引き続き事業手法等について十分な検討を行いながら、効果的・効率的な事業推進を図っていきます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	今年度のボルチモア市との姉妹都市提携40周年記念事業においては、本市代表団によるボルチモア市訪問に加えて、スカウトの交流団による訪問・市民交流や、市民文化局主催の記念コンサートなどの機会を捉えて本市のPR等を行うことにより、都市イメージの向上への一定程度の貢献がありました。

改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	引き続き、お互いの都市が持つ特性を活用し、それぞれのメリットを明らかにした互恵関係が構築できる交流事業を実施することにより、地域における国際交流を推進していきます。 (新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、訪問による交流は見合わせていますが、オンラインでのやり取りなど交流の手段を多様化することなどにより、新たな交流のあり方を検討しながら取り組んでいきます。)
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつこ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載							
	40901030	国際施策推進事業				無							
担当	組織コード	所属名											
	171100	総務企画局総務部庶務課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	平成28年度	令和7年度	その他		政策推進計画等(策定・進行管理)								
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)												
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度					
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	227	0	227	227	0	227	29		227			
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	0	-	0	0		0		
		市債	0	-	0	0	-	0	0		0		
		その他特財	0	-	0	0	-	0	0		0		
		一般財源	227	-	227	227	-	227	29		227		
	人件費 [*] B	2,880	2,880	2,889	2,889	2,889	0	0	0	0	0	0	
総コスト(A+B)	3,107	2,880	3,116	3,116	2,889	227	29	0	227	0	0		
人工(単位:人)	0.34		0.34										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、企業、職員	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	国際施策推進プランの的確な推進を図り、真のグローバル都市川崎をめざします。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	川崎市国際施策推進委員会を運営し、プランの進捗管理を実施します。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「国際施策推進プラン」に基づく取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①国際施策推進プランについては、国際施策推進委員会を1回開催し、庁内の情報共有と国際施策の推進及び進捗管理を行いました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	活動指標 川崎市国際施策推進委員会の開催件数	目標	1	1	1	2	回
		実績	1	1	-	-	
2	説明	目標					
		実績			-	-	
3	説明	目標					
		実績			-	-	
4	説明	目標					
		実績			-	-	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		訪日外国人旅行者の増加や国際的な都市間競争の激化、外国人市民の増加と多様化など、グローバル化に伴う新たな課題への取組が求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		H27年度: 多文化共生分野も含めた総合的な国際施策を推進するため「川崎市国際施策推進プラン」を策定しました。 H24年度: 庁内各局で個別に行われている国際関連事業を全庁的な観点に立って整合性を図りながら効果的に実施していくため、「国際施策展開の基本的な考え方」(庁内向け・国際展開分野のみ)を作成しました。 H23年度: 庁内の国際関連事業を所管する課で情報共有等を行う「川崎市国際施策調整会議」を設置・開催しました。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を直前に控え、今後、更なる訪日外国人旅行者の増加が見込まれ、また、市内外国人市民も増加・多様化しており、課題解決に向けては、市民や市民団体を含め、本市全体で取り組む必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	国際施策推進プランを適正に進捗管理することにより、本市国際施策が総合的に推進されました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	本市国際施策の着実な推進にあたっては、民間事業者等に委託することなく、行政自らが進捗管理を行う必要があります。今後とも、国際施策推進委員会・同幹事会を通じて、国際施策の庁内調整・情報共有を行い、効果的・効率的な事業推進を図ってまいります。なお、必要に応じて、幹事会の書面開催や資料のペーパーレス化を行うなど、事務改善を図ります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	国際施策を総合的に推進することにより、海外を含む市内外へ本市の多様な魅力や強みなどをアピールするなど、一定程度の施策への貢献はありました。

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	引き続き、国際施策推進委員会を通じてプランの進捗管理を着実に行うとともに、庁内の情報共有や連携、課題への対応を図ることにより、真のグローバル都市川崎をめざします。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつこ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載							
	40901040	交流推進事業				無							
担当	組織コード	所属名											
	251000	市民文化局市民生活部(交流推進担当)											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	—	—		イベント等	—								
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)												
総合計画と連携する計画等	文化芸術振興計画												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度					
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	27,920	26,607	27,920	27,783	27,123	27,920	26,950		27,920			
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	—	0	0		0		
		市債	0	—	0	0	—	0	0		0		
		その他特財	1,478	—	1,478	1,342	—	1,478	1,045		1,478		
		一般財源	26,442	—	26,442	26,441	—	26,442	25,905		26,442		
	人件費* B	4,659	4,659	5,098	5,098	5,098	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	32,579	31,266	33,018	32,881	32,221	27,920	26,950	0	27,920	0	0	
	人工(単位:人)	0.55		0.6									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	本市及び友好自治体の市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本市と友好自治体の関係にある都市との交流を深め、本市の都市イメージの向上を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	本市と国内友好自治体の次代を担う子どもたちが一堂に会する場を提供し、相互理解と親善を深めます。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①友好都市と本市の小学生高学年児童による交流会の実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①本市の魅力PRできる施設見学や参加児童の交流を盛り込んだ友好自治体交流会を8月に実施しました。友好自治体及び本市の子ども32名が参加し、相互理解と友好親善を深めることができました。 また、今後の交流事業について、友好都市に意向を照会、協議したほか、他都市交流事例を調査する等、方向性及び内容の検討を行いました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	活動指標 友好自治体交流会参加児童数	目標	30	30	30	30	人
		実績	36	32	—	—	
2	説明	目標					
		実績			—	—	
3	説明	目標					
		実績			—	—	
4	説明	目標					
		実績			—	—	
5	説明	目標					
		実績			—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	交流事業の実施にあたっては、各自治体の厳しい財政状況のもと、その事業の効果が具体的にみえることが求められてきています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: 友好自治体の子どもの交流事業実施において、参加した子どもの送迎方法について効率化を図るなど事業の実施方法を見直し、経費を節減しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	友好都市と連携した交流会を実施し、参加した子ども同士の交流プログラムや市内施設見学等を行うことで、本市のイメージアップにつながる事業ですが、今後、子どもに対象を限定しない交流について検討する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	次世代を担う子どもたちに本市を知ってもらうことでイメージアップを図る事業であり、参加児童アンケートでも満足度が高いです。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	友好自治体交流会等の交流事業は、事業内容の委託化は可能ですが、大幅なコスト増が見込まれます。今後は、交流の在り方を再検討し、中長期の交流の方向性を検討する必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	次世代を担う子どもが参加し交流を行うことで、自分のまちや他のまちについて知り、友好親善を深めるとともに、東芝未来科学館やかわさきエコ暮らし未来館の見学などにより、本市のイメージアップを図ることができました。

改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II 本市、友好都市双方が、イメージアップや地域活性化等のメリットを得られるよう、相互の都市特性を生かした交流事業について、引き続き内容等を検討し、事業を継続していきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	①友好都市と本市の小学生高学年児童による交流会の実施
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	①友好都市等との文化芸術・人材等の相互交流の推進【変更】
	変更の理由	令和元年度まで、国内友好都市の小学生高学年児童による交流会を開催してきたが、効果の見直しを受け、令和2年度から文化芸術・人材等の相互交流を推進していく。

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載						
	40901050	国際交流センター管理運営事業				有						
担当	組織コード	所属名										
	251000	市民文化局市民生活部(交流推進担当)										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—	施設の管理・運営	—								
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市国際交流センター条例											
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン,人権施策推進基本計画											
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名								
	取組1(1)多様な主体が共に担うまちづくりの推進			5 国際交流センターを活用したグローバル人材の育成支援								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度				
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	167,570	165,403	169,570	169,349	182,482	169,570	184,580	169,570		
		国庫支出金	0	—	0	0	—	0	10,000	0		
		市債	0	—	1,000	0	—	1,000	0	1,000		
		その他特財	5,217	—	5,217	5,272	—	5,217	5,320	5,217		
		一般財源	162,353	—	163,353	164,077	—	163,353	169,260	163,353		
	人件費※ B	16,093	16,093	15,718	15,718	15,718	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	183,663	181,496	185,288	185,067	198,200	169,570	184,580	0	169,570	0	0
	人工(単位:人)	1.9		1.85								

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画(Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、市民で構成される団体、企業	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本施設を拠点として、市民が国際理解を深め、市民文化の向上や国際親善の発展に寄与する社会の形成を目指します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	指定管理者制度による運営のもと、国際理解を深める講座や国際交流を推し進める事業等を開催するとともに、国際交流に取り組む市民団体等への支援や施設の貸出を行います。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①国際相互理解を進めるための講座の充実及び質の高い日本語、外国語等の研修の実施 ②国際交流に取り組む市民、団体等の主体的な国際活動を促す情報提供等 ③外国人窓口相談事業の実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果(Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等により具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①外国語による国際理解講座では、時勢に合った社会問題をテーマとするなどの趣向を凝らし、国際理解のための各種イベント・講座を実施し、前年度に比し受講者数は増加しましたが、目標値には至りませんでした(受講者数:418人)。受講者を増加させるため、引き続きテーマ設定を工夫するほか、会場規模や開催回数も検討していきます。日本語講座については、前年度に課題となった入門・初級レベルの受講希望者の増加に対応するよう、クラス編成を工夫しましたが、受講者数は減少しました(受講者数:364人)。需要増加が見込まれる中で受講者数が減少傾向にある要因を、受講者アンケート等により分析し、来年度に向けて内容・運営方法・広報等必要な改善を図ります。 ②国際交流に取り組む市民、団体等の活動を支援するとともに、活動団体と連携し、国際交流センターを活用した外国につながる子どもの学習支援等に引き続き取り組みました。 ③新たに創設された国の外国人材受入環境整備交付金を活用し、日本語を含む11言語に対応する等、外国人窓口相談の拡充を図り、令和元年7月末に拡充窓口を開設しました(相談件数:1,702件)。さらなる利用促進のため、市内在住外国人市民のうち中国語圏の方が約4割を占めることから、令和2年度以降中国語による対応を現在の週3回から回数を増やすほか、周知・広報の不足も考えられることから、相談窓口について一層の広報を図ります。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1 活動指標	国際交流を促進する講座・イベントの開催数	目標	55	55	55	55	回
	説明 国際相互理解を進めるための各種講座の実施回数	実績	62	58	—	—	
2 成果指標	国際理解講座受講者数	目標	500	510	520	530	名
	説明 地域における国際化の担い手としての市民の国際理解の増進のための講座受講者数	実績	411	418	—	—	
3 成果指標	日本語講座受講者数	目標	480	500	520	540	名
	説明 外国人市民のコミュニケーション支援としての日本語講座受講者数	実績	467	364	—	—	
4 成果指標	外国人窓口相談件数	目標	1,740	1,760	1,780	1,800	件
	説明 外国人市民への生活支援としての外国人窓口相談件数	実績	1,558	1,702	—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	国際交流センターは築20年以上が経過していることから、ハード面において、市の施設長寿命化の方針に沿って施設・設備の機能回復を計画的に進めるとともに、ソフト面においても、国際交流拠点としてのさらなる活用と機能強化を図る必要があります。また、平成31年4月から改正出入国管理及び難民認定法等が施行され、新たな在留資格が創設されることに伴い、国は外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策を策定しました。このため、本市においても、外国人との共生社会の実現に向けたさらなる取組が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 1 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R1年度:外国人窓口相談について、日本語を含む7言語から11言語対応に拡充しました。 H28年度:国際交流センターのあり方等で検討された、駐車場の有料化、ホテル・レストランの行政財産の貸付方法の見直しなどを進めました。 H27年度:国際交流センターのあり方等について、庁内の検討会議を立ち上げ、検討を進めています。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
評価の理由	市内在住外国人市民数が年々増加し、国の外国人材受入れ・共生のための総合的対応策が示される中、国際交流センターを拠点とした国際交流の推進や、多言語による生活相談、日本語講座等の多文化共生のための事業を、継続的に実施していく必要があります。		
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	C
	評価の理由	成果指標である国際理解講座受講者数、日本語講座受講者数、外国人窓口相談件数について、いずれも目標値を下回っており、それぞれの要因を分析し、改善に向けた対応が必要です。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	C
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
評価の理由	国際交流センターは指定管理者により運営されており、民間活用はすでに実施されています。また、事業手法の見直しについても、平成29年度から駐車場有料化、ホテル・レストラン定期建物賃貸借契約が既に実施されています。今後は、国際交流・国際施策の推進、及び多文化共生社会の実現に向けた取組について、指定管理者の持つ専門性により、継続的に実施していく必要があるため、次期指定管理事業者選定に向け、仕様等の見直しを検討していく必要があります。		

施策への貢献度	貢献度区分	B	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		来館者数、施設の貸出とともに高い水準を維持しており、各種イベント・講座の開催を通じ、市民レベルでの国際理解・交流を促進したほか、日本語講座や外国人市民の生活に役立つ講座の開催、拡充した11言語による相談の実施により、多文化共生施策の推進に一定程度貢献しました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	II	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了		指定管理者制度による運営のもと、国際理解と友好親善を深めるため、国際交流・多文化共生を進める事業を実施するとともに、活動に取り組む市民、団体等への支援や施設貸出を継続して行います。参加者アンケート等の分析を踏まえたイベント・講座の企画により受講者数を増やすとともに、今後も増加が予想される外国人市民への対応として、令和元年度に拡充した外国人窓口相談について、一層の広報・周知により利用促進を図る等、国の外国人材受入れ・共生のための総合的対応策も視野に入れ、本市の多文化共生施策の推進に貢献していきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 <small>(次年度計画上の記載)</small>		③外国人窓口相談事業の実施
	変更後 <small>(上記計画上の記載に対する変更点)</small>		③外国人窓口相談(多文化共生総合相談ワンストップセンター)の拡充実施【変更】
	変更の理由		国の外国人材受入れ・共生のための総合的対策に基づき、多文化共生総合相談ワンストップセンターを令和元年7月に拡充・実施し、今後も取組を継続して対応していくため。

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載							
	40901060	市民文化大使事業				有							
担当	組織コード	所属名											
	258000	市民文化局市民文化振興室											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	—	—	その他	その他	その他								
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術基本法、川崎市文化芸術振興条例												
総合計画と連携する計画等	スポーツ推進計画,文化芸術振興計画,シティプロモーション戦略プラン												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度			R2年度		R3年度				
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A		1,851	0	2,134	2,077	481	1,851	1,738		2,134	
		国庫支出金	0	-	0	0	-	0	0		0		
			市債	0	-	0	0	-	0	0		0	
			その他特財	600	-	600	600	-	600	600		600	
			一般財源	1,251	-	1,534	1,477	-	1,251	1,138		1,534	
	人件費 [※] B		2,118	2,118	3,398	3,398	3,398	0	0	0	0	0	0
	総コスト(A+B)		3,969	2,118	5,532	5,475	3,879	1,851	1,738	0	2,134	0	0
	人工(単位:人)		0.25		0.4								

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成
	直接目標	市内外における市の認知度・好感度を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	川崎市にゆかりのある文化芸術、スポーツ等の分野で活躍している人	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	川崎市のアピールとイメージアップに貢献していただきます。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	川崎市にゆかりのある文化芸術、スポーツ等の分野で活躍している人を川崎市市民文化大使に認定し、個々の活動や市長の代理としての業務または市の業務などを通じて川崎市のアピールやイメージアップに貢献していただきます。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①市民文化大使の活動を通じた本市の魅力のPRやイメージアップ ②市民文化大使の改選(第9期、任期2年)	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①市民文化大使が行った東日本大震災の被災者支援に対し補助金を交付しました(1回)。また、市の依頼による事業への参加(1回)のほか、市民文化大使は個々の活動や市に関連する事業への協力により、川崎市の魅力のPRやイメージアップなどに貢献しています。 ②第9期市民文化大使の改選を行い、11組を委嘱しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	活動指標 本市の事業又は制度を活用した市内外での活動件数	目標	1	2	3	3	回
		実績	1	2	-	-	
2	説明	目標					
		実績			-	-	
3	説明	目標					
		実績			-	-	
4	説明	目標					
		実績			-	-	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	グローバル化が進展する中、より一層の都市イメージの形成・向上を図るため、現状の事業内容を維持しつつも市民文化大使の活躍の幅を広げるよう、庁内外を問わずより一層の連携及び情報発信が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 30 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H30年度: 大規模災害被災者等支援基金を活用した補助金の要綱を制定し、補助金制度を明確化しました。 H25年度: 東日本大震災被災者等支援基金を活用した、市民文化大使の被災地での活動に対する補助金の創設など、市民文化大使の活動の幅を広げるための見直しを行いました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	川崎市にゆかりがあり、文化芸術、スポーツ等の分野で活躍している市民文化大使が、個々の活動や市の業務などを通じて市のPR等を行うことは、市が直接行うよりも幅が広く、注目度も高いため、事業の必要性は高いと考えます。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	市内外での活動を通じて、多くの人が文化芸術に触れる機会を創出するとともに、本市のPR活動を行っているため、徐々に上がっているものと考えます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	・市民文化大使自身の活動の中で市のPR活動等を行っていたいものは、委託等の契約行為によるものではなく、市の負担は小さいため、経費削減の余地はないと考えます。 ・質の向上については、市民文化大使との意見交換等を行い、活動がより効果的なものになる余地はあります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	市民文化大使自身の活動のほか、被災地支援、庁内各部署における事業等に市民文化大使が協力することで、本市の魅力のPRやイメージアップに貢献しています。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 今後も市民文化大使との意見交換等を行いながら、主として市民文化大使自身の活動の中で本市のPRやイメージアップを行っていただくとともに、本市に関連した事業に協力いただくことで、本市の魅力向上や文化芸術の振興も図ります。 (新型コロナウイルスの感染拡大を受け、文化芸術・スポーツ活動の場が制限されたり、感染拡大防止対策を講じたイベント等の開催により、文化大使の活躍の場が変化する可能性があり、本事業の取組についても状況に応じた方法を検討する必要がある。)
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつこ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

施策評価シート(第2期実施計画 中間評価)

1 施策の概要						
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり				
	政策(2層)	戦略的なシティプロモーション	計画当初値(H27年)	直近実績値(R1年)	最終目標値(R7年)	
	市民実感指標	① 市に魅力や良いイメージがあると感じている人の割合	40.7%	39.0%	50.0%	
施策(3層)	施策コード	施策名				
	40902000	川崎の特性を活かした観光の振興				
担当	組織コード	所属名				
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課				
関係課	経済労働局公営事業部総務課、業務課					
施策の主な課題	<ul style="list-style-type: none"> ●訪日外国人旅行者の増加を市内でのインバウンド消費につなげていくためには、東京2020オリンピック・パラリンピックを好機として捉え、より多くの外国人を魅了するための観光資源の一体的な活用や、観光情報の積極的な発信などに取り組む必要があります。 ●競輪事業については、趣味やレジャーの多様化、ファンの高齢化などにより、車券売上額の減少傾向が続いていることから、更なる施策の展開が求められています。 					
施策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●観光協会、民間企業、近隣自治体等との連携による「オール川崎」での観光振興施策の推進 ●川崎の特性を活かした産業観光の推進 ●競輪事業における持続可能な事業運営の確立に向けた施設整備及び効率的な運営の推進 					
直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる					

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
	実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)	1期策定時	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位等
		2期策定時						
成果指標	1 主要観光施設の年間観光客数 指標の説明 主要観光施設からの報告値等の集計	1,504 (H26)	目標値a 1,696 実績値b 1,628	1,748	1,801	1,856	万人(年)表記	
		1,549 (H28)	達成率(b/a) 96.0% 指標達成度 b	89.2%	-	-	増減	
	2 宿泊施設の年間宿泊客数 指標の説明 市内主要宿泊施設の集計に基づく市内全体の宿泊施設の推計値	178 (H26)	目標値a 190 実績値b 195	193	195	198	万人(年)表記	
		183 (H28)	達成率(b/a) 102.6% 指標達成度 a	112.4%	-	-	増減	
3 宿泊施設の年間宿泊客数【外国人】 指標の説明 市内主要宿泊施設の外国人宿泊客数の集計に基づく市内全体の宿泊施設の推計値	15 (H26)	目標値a 21 実績値b 26	22	22	23	万人(年)表記		
	20 (H28)	達成率(b/a) 123.8% 指標達成度 a	127.3%	-	-	増減		
4 工場夜景・産業観光ツアーの年間参加者数 指標の説明 工場夜景ツアー及び産業観光ツアーの参加者数の集計	6,600 (H26)	目標値a 7,400 実績値b 5,300	7,700	7,900	8,100	人(年)表記		
	5,416 (H28)	達成率(b/a) 71.6% 指標達成度 c	62.3%	-	-	増減		
数値で把握できる補足指標(指標の説明)			実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	指標の説明		実績			-	-	
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)	<p>工場夜景観光の取組は、平成20年度から全国に先駆けて川崎市がはじめ、他都市にも少しずつ波及し、平成23年2月に、川崎市、四日市市、室蘭市、北九州市の4都市で「全国工場夜景サミット」を開催しました。現在、「全国工場夜景サミット」への参加は11都市まで広がっており、全国的に工場夜景観光という取組の認知度が高まっており、民間事業者が実施している定期ツアーにも多くの参加者がいることから、川崎の工場夜景が一定の認知を得ていると考えられます。</p> <p>修学旅行で関東地方を訪問する地域の旅行代理店等に川崎の産業観光を紹介することにより、旅行代理店からの問い合わせが来るようになったことから、修学旅行での訪問先として川崎市が一定の認知を得ていると考えられます。</p>							
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)	<ul style="list-style-type: none"> ●成果指標である宿泊施設の年間宿泊客数、外国人宿泊客数は、市内に新たな宿泊施設が開業したこと等の外的要因により順調に増加しています。 ●主要観光施設の年間観光客数や工場夜景・産業観光ツアーの年間参加者数については、リニューアルによる施設の休館や、令和元年東日本台風の影響によるイベント中止に伴う施設利用者の減少、ツアーのキャンセルが発生したため、目標値を下回る実績となりました。 							

※ 指標達成度の目安 a. 目標値以上(100%以上)、b. 1期策定時以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～1期策定時未満、d. 目標達成率60%未満

(第2期実施計画から新たに設定した指標は、指標達成度b又はcにおける「1期策定時」を「2期策定時」に読み替えるものとする)

※ 指標達成度の目安 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満

3 施策を構成する主な事務事業の評価

番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額 (計画事業費)	決算額			
H30年度									
R1年度(決算額は見込)									
R2年度									
R3年度									
1	40902010 観光振興事業	その他	観光協会、商工会議所、企業、近隣自治体等との連携体制の構築による旅行商品の造成や広報など、オール川崎による集客事業を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ●新・かわさき観光振興プランに基づく施策を推進 ●工場夜景等、様々な観光資源の魅力を発信 ●「かわさききたテラス」における多言語による観光案内 ●民泊事業の現地確認など適正な運営を確保 ●インフルエンサーの招聘など誘客促進の取組を実施 ●11月2日から4日に「かわさき市民祭り」を開催 	103,341	97,880	3	A	Ⅲ
					103,582	99,812	3	A	Ⅱ
					140,673	-	-	-	-
					96,260	-	-	-	-
2	40902020 産業観光推進事業	その他	産業観光ツアー、工場夜景ツアーを引き続き推進するとともに、全国の工場夜景都市と連携した取組等を実施します。また、全国各地への教育旅行誘致活動を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ●産業観光ツアー等を推進(企画回数H30:7回、R1:8回) ●北海道、東北、近畿、中国、九州地方など、教育誘致活動を実施 【H30】バスやクルーズ等の工場夜景ツアーを実施 【R1】北部市場&補収複体体験ツアーやロケ地巡りバスツアーを実施 ●川崎工場夜景等のガイド養成に向け、ガイド養成講座や実施研修、OJT研修等を実施 ●外国人観光客向けモニターツアーの実施及びSNSによる情報発信の実施 	10,950	10,950	3	A	Ⅲ
					13,700	13,700	3	A	Ⅱ
					13,570	-	-	-	-
					10,950	-	-	-	-
3	40902030 市制記念花火大会事業	イベント等	川崎の市制記念のイベントとして親しまれている花火大会を開催することで、「ふるさと川崎」の意識の高揚を図り、豊かな市民文化の創造を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ●協賛花火の整理やレーザー光線を組み合わせた音楽花火等、集客促進に向けた取組を実施(有料協賛席チケット販売数H30:4,999席、R1:5,233席) 【H30】秋開催への変更に伴い警備計画を見直し、安全に実施 【R1】前回の要改善事項に基づく警備計画等の見直しにより、安全に大会を実施 	81,201	81,173	3	A	Ⅱ
					81,201	81,171	3	A	Ⅱ
					81,201	-	-	-	-
					81,201	-	-	-	-
4	40902040 競輪場整備事業	施設の管理・運営	公園との一体感を感じられる空間づくりや持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくりをメインコンセプトとして、施設整備を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 【H30】再整備の推進については、入場門棟改築工事及び外構整備、バンク内広場整備工事、メーンスタンド3階内装工事の設計を実施 【R1】大規模な施設整備の推進については、東サイドスタンド除却とバンク大改修の同時実施の調査研究 ●施設・設備の改修については、老朽化設備の更新工事及び維持修繕工事を実施 	226,899	501,906	3	A	Ⅱ
					72,302	50,135	3	A	Ⅱ
					235,581	-	-	-	-
					388,702	-	-	-	-
5	40902050 競輪等開催・運営事業	その他	包括的な業務委託の導入により、効果的・効率的な業務運営を行うことで、コスト削減、ファンサービス向上、市民利用・多目的利用の一層の推進を図り、競輪事業の効果的・効率的な実施及び市民に親しまれる競輪場の確立を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ●包括的な業務委託による事業の効率化や各種サービス面での充実及び効果的な運営 ●ガールズ競輪、競輪女子会、外国人向け観戦ツアーの開催のほか、SNSを活用して動画配信を行うなどによる新規ファンの獲得 【H30】令和2年度特別競輪開催に向けた取組及びGⅢナイターの開催(2回)などによる収益の向上 【R1】令和3年度の特別競輪開催に向け、開催申請資料の提出や競輪関係団体に対しPR活動を実施 ●本場開催時の企業・個人協賛レースやミッドナイト競輪の開催、枠外開催の誘致などによる新規顧客の獲得及び収益の向上 ●おもしろ自転車や競輪ブースの出演、アマチュア愛好家のバンク利用、富士通スタジアムと連携したサイクルイベントなど、市民に親しまれる競輪場に向けた取組の推進 	19,495,878	17,554,724	3	A	Ⅱ
					18,246,957	16,720,225	3	A	Ⅱ
					23,729,569	-	-	-	-
					19,495,878	-	-	-	-

※ 事業の達成度【1. 目標を大きく上回った、2. 目標を上回った、3. ほぼ目標どおり、4. 目標を下回った、5. 目標を大きく下回った】
 ※ 施策への貢献度【A. 貢献している、B. やや貢献している、C. 貢献度合いが薄い】
 ※ 今後の事業の方向性【I. 現状のまま継続、II. 改善しながら継続、III. 事業規模拡大、IV. 事業規模縮小、V. 事業廃止、VI. 事業終了】

4 施策の進捗状況

施策の進捗状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
	A. 順調に推移している (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	B	

5 今後の方向性

今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II	

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる施策については、かつこ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国)による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載							
	40902010	観光振興事業				有							
担当	組織コード	所属名											
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	—	—		その他	その他								
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)												
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン,まち・ひと・しごと創生総合戦略,産業振興プラン,情報化推進プラン,文化芸術振興計画,新・かわさき観光振興プラン												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度					
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	103,341	97,880	99,260	103,582	99,812	99,260	140,673		96,260			
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	—	0	25,500		0		
		市債	0	—	0	0	—	0	0		0		
		その他特財	914	—	913	877	—	913	330		913		
		一般財源	102,427	—	98,347	102,705	—	98,347	114,843		95,347		
	人件費※ B	47,432	47,432	49,787	49,787	49,787	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	150,773	145,312	149,047	153,369	149,599	99,260	140,673	0	96,260	0	0	
	人工(単位:人)	5.6		5.86									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	観光客等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市内への集客を推進し地域経済を活性化します。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	観光協会、民間企業、近隣自治体等と連携して旅行商品の造成や戦略的な広報に取り組みとともに、本市の観光施策を効果的に実施します。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①新・かわさき観光振興プランに基づく施策の展開 ②本市の多彩な観光資源の魅力発信と多様な広報戦略の推進 ③旅行者の利便性が高い川崎駅での観光案内の提供 ④民泊事業の適正な運営確保と活用 ⑤外国人観光客の誘客促進及び観光客受入態勢の充実 ⑥市民文化の創造と地域経済の活性化を推進するかわさき市民祭りの開催	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①メディア等を活用した情報発信による生田緑地の観光強化など、新・かわさき観光振興プランに基づく施策を推進 ②ホームページ内容の充実及び工場夜景等の魅力や様々なイベント情報を効果的に発信 ③「かわさききたテラス」においてお客様のニーズに合わせて多言語による観光案内を提供 ④住宅宿泊事業、いわゆる民泊事業については、届出のタイミングでの全件現地確認など適正な運営を確保 ⑤インフルエンサーの招請や旅行博への出展など誘客促進の取組を実施 ⑥11月2日から4日までかわさき市民祭りを開催						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1 成果指標	主要観光施設の年間観光客数	目標	1,696	1,748	1,801	1,856	万人 (「年」表記)
	説明 主要観光施設からの報告値等の集計	実績	1,628	1,560	—	—	
2 成果指標	宿泊施設の年間宿泊客数	目標	190	193	195	198	万人 (「年」表記)
	説明 市内宿泊施設からの報告値等の集計	実績	195	217	—	—	
3 成果指標	宿泊施設の年間宿泊客数【外国人】	目標	21	22	22	23	万人 (「年」表記)
	説明 市内主要宿泊施設の外国人宿泊客数の集計に基づく市内全体の宿泊施設の推計値	実績	26	28	—	—	
4		目標					
	説明	実績			—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2017年(平成29年)中に神奈川県を訪れた観光客(入込観光客)の推計延人数は2億69万人で、2016年(平成28年)の1億9,027万人に比べ1,042万人増加し、初めて2億人を突破しました。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H29年度: 宿泊施設の年間宿泊客数【外国人】の成果指標の数値の見直しを行い、次年度の目標数値に反映しました。 H28年度: 新・かわさき観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H27年度: 観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H26年度: 観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	b
	評価の理由	2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、国内外からの観光に関するニーズは増加する見込みであり、多岐に渡る様々な取組を実施するため、行政が主体となって実施していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	台風の影響等により年間観光客数に一部減少が見られましたが、その他の成果指標は概ね上がっております。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	市が直営で行っている業務の一部を川崎産業観光振興協議会や川崎市観光協会に移行することによりコストの削減や時宜を得たプロモーションの実施が見込まれます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	外国人誘客事業、ホームページ・ガイドブック等による情報発信等が国内外からの宿泊客数の増加に繋がり、川崎の魅力向上や地位経済活性化等に貢献しています。

改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	東京オリンピック・パラリンピック開催により、国内外の観光客の増加が見込まれることから、夜間の観光資源の充実化等、新たな観光資源の発掘や整備等を進めてまいります。 (新型コロナウイルス感染症の影響により、東京オリンピック・パラリンピックが延期され、また国内外の観光客が大幅に減少していることから、各取組の実施時期や実施方法について、感染状況を見ながら慎重に検討してまいります。)
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	⑤外国人観光客の誘客促進及び観光客受入態勢の充実	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	⑤外国人観光客の誘客促進及び観光客受入態勢の充実(新たな観光資源としてのナイトタイムエコノミーの形成)【変更】	
	変更の理由	ナイトタイムエコノミーが新たな外国人観光客の誘客の取組として令和2年度から追加されたため。	

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載							
	40902020	産業観光推進事業				有							
担当	組織コード	所属名											
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	—	—		その他	—								
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)												
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン,産業振興プラン,文化芸術振興計画,新・かわさき観光振興プラン												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名										
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度					
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	10,950	10,950	10,950	13,700	13,700	10,950	13,570		10,950			
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	—	0	0		0		
		市債	0	—	0	0	—	0	0		0		
		その他特財	0	—	0	0	—	0	0		0		
		一般財源	10,950	—	10,950	13,700	—	10,950	13,570		10,950		
	人件費※ B	17,787	17,787	15,208	15,208	15,208	0	0	0	0	0	0	
総コスト(A+B)	28,737	28,737	26,158	28,908	28,908	10,950	13,570	0	10,950	0	0		
人工(単位:人)	2.1		1.79										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	観光客等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本市、川崎産業観光振興協議会、川崎市観光協会、川崎商工会議所等が一体となり川崎の産業観光の推進を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市内に多数存在している産業観光施設を効果的に活用し、産業観光ツアーや工場夜景ツアーを推進するとともに、全国各地への教育旅行誘致活動を実施します。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①産業観光ツアー及び工場夜景ツアーの促進 ②教育旅行誘致活動の実施 ③着地型旅行商品等の企画・検討 ④川崎工場夜景等のガイド養成 ⑤インバウンド観光の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①令和元年東日本台風の影響により一部中止となったが、ジャズライブを聞きながら工場夜景地帯を巡るツアーや、川崎フロンターレや川崎プレイブサンダースと連携したツアー等、新たな切り口でのツアーを実施 ②北海道、近畿、中国、九州地方等の旅行会社へのプロモーションの実施 ③北部市場&柿収穫体験ツアーやかわさきロケアワードコラボ企画ロケ地巡りバスツアーの実施や新たな定期ツアーの検討 ④ガイド養成講座や実地研修、OJT研修等を実施 ⑤外国人モニターツアーを実施し、工場夜景や川崎大師を外国人が楽しむための課題等の洗い出しを実施						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1 活動指標	産業観光ツアーの実施回数	目標	6	6	6	6	回
	説明 産業観光ツアーの実施回数の集計	実績	7	8	—	—	
2 成果指標	工場夜景・産業観光ツアーの年間参加者数	目標	7,400	7,700	7,900	8,100	人 (「年」表記)
	説明 工場夜景ツアー及び産業観光ツアーの参加者数の集計	実績	5,300	4,800	—	—	
3	説明	目標					
		実績			—	—	
4	説明	目標					
		実績			—	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		2017年(平成29年)中に神奈川県を訪れた観光客(入込観光客)の推計延人数は2億69万人で、2016年(平成28年)の1億9,027万人に比べ1,042万人の増加し、初めて2億人を突破しました。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		H29年度:新・かわさき観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H28年度:新・かわさき観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H27年度:観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。 H26年度:観光振興プランに基づく各事業の取組を評価し、次年度の取組に反映しました。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	b
	評価の理由	2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、国内外からの観光に関するニーズは増加する見込みであり、多岐に渡る様々な取組を実施するため、行政が主体となって実施していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	令和元年東日本台風の影響による中止等により、ツアー参加者数の指標の目標値には到達していませんが、川崎工場夜景を鑑賞するクルーズツアーはミュージアム川崎やジャズ、ハロウィン、フロンターレ等、様々なコラボが進み、実施回数目標値を超えています。産業観光や工場夜景など体験型観光は全国的にも注目されており、今後も増加する見込みです。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	市が直営で行っている業務の一部を川崎産業観光振興協議会や川崎市観光協会に移行することによりコストの削減や、時宜を得たプロモーションの実施が見込まれます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	現在、実施している産業観光ツアーや工場夜景ツアーは、市内外から多くのお客様に利用されているとともに、特に工場夜景は、新聞やテレビなど多くのメディアから注目されており、川崎の魅力向上等に貢献しています。

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	東京オリンピック・パラリンピック開催により、国内外の観光客の増加が見込まれることから、体験型観光としてナイトタイムも楽しめる工場夜景を活用した取組を進めてまいります。 (新型コロナウイルス感染症の影響により、東京オリンピック・パラリンピックが延期され、また国内外の観光客が大幅に減少していることから、各取組の実施時期や実施方法について、感染状況を見ながら慎重に検討してまいります。)
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かっこ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載							
	40902030	市制記念花火大会事業				有							
担当	組織コード	所属名											
	283350	経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	—	—	イベント等	—									
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)												
総合計画と連携する計画等	産業振興プラン,文化芸術振興計画,新・かわさき観光振興プラン												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度					
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	81,201	81,173	81,201	81,201	81,171	81,201	81,201		81,201			
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	—	0	0		0		
		市債	0	—	0	0	—	0	0		0		
		その他特財	0	—	0	0	—	0	0		0		
		一般財源	81,201	—	81,201	81,201	—	81,201	81,201		81,201		
	人件費* B	8,047	8,047	8,071	8,071	8,071	0	0	0	0	0	0	
総コスト(A+B)	89,248	89,220	89,272	89,272	89,242	81,201	81,201	0	81,201	0	0		
人工(単位:人)	0.95		0.95										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	主に川崎市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	花火大会を安全に楽しんでもらうとともに、「ふるさと・川崎」の意識を醸成しながら、市内観光産業の活性化を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	花火を楽しんでもらえるよう打上内容等に工夫を凝らすとともに、事故のないよう観客動線の確保や警備を充実させて安全に開催します。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①観覧客の安全確保及び継続可能な花火大会の企画の立案・実施(有料協賛席販売数:5,250席以上) ②民間事業者との連携による安全で楽しい大会の運営計画の策定と実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①協賛花火の整理やレーザー光線を組み合わせた音楽花火を企画・実施するなど、集客促進に向けた取り組みを行い、5,233席を販売することができました。さらに、協賛ブースの新設や企業・団体等へ積極的な協賛依頼を行い、協賛金は昨年度より80万円以上の増額となりました。 ②前回大会における交通規制・会場案内の不備や人員・物品の過不足等の要改善事項について、警察・消防・警備会社をはじめ各種関係事業者等との綿密な協議・調整を基に警備計画を見直し、安全に大会を実施することができました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	成果指標 有料協賛席チケット販売数	目標	5,250	5,250	5,250	5,250	席
		実績	4,999	5,233	—	—	
2	説明	目標					
		実績			—	—	
3	説明	目標					
		実績			—	—	
4	説明	目標					
		実績			—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	近年の気候変動や来場者数の増加に対し、周辺環境の保全や観客の安全確保に最大限留意して、事業を実施する必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 30 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H30年度・平成29年度に落雷及びゲリラ豪雨の影響で中止になったことを踏まえ、観客の安全確保を図るため、平成30年度からは秋に開催することとしました。 H27年度以前は、東京会場上流側緩衝地帯については観客の立ち入りを禁止していましたが、東京会場での観客増に対応するため、保安と周辺住民の住環境保全に留意しつつ、その一部に上野毛B地区有料協賛席を新たに設定しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	b
	評価の理由	花火大会に対するニーズは来場者数やチケット販売数、協賛金の増加により明らかです。遊園地等における小規模な花火打上は民間においても実施されていますが、公共空間における大規模な花火大会の場合は、周辺の交通規制や警備・医療体制の確保等の課題が多いため行政による実施が不可欠です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	成果指標である有料協賛席チケットの販売数が目標値近くまで伸びており、本事業がふるさとの機運醸成や地域経済の活性化を図るために有効となっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	既に運営主管業務を民間に委託し有料協賛席の運営を任す等のコスト削減やサービス向上を図っていますが、近年安全対策費用が膨らんできているため、持続的に事業を実施するためには事業手法の見直しを検討する必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	市が主体となってから40年余開催している市民の期待が高い事業であり、また民間の活用により効率性の高い事業執行を行うことで、成果指標が目標に向け徐々に上がっていることから、川崎の特性を活かした観光の推進に寄与していると考えます。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	協賛金収入の拡大を図りながら、集客促進に向け魅力ある花火プログラムを企画して積極的に広報し、有料協賛席チケットの販売数を増加させるなど改善を図る必要があります。また、今後も世田谷区たまがわ花火大会と連携してPRすることにより、効率的かつ効果的に開催していきます。 (新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、共同主催者である市観光協会及び高津観光協会と協議を行うとともに、同時開催予定の世田谷区とも情報共有を図りながら、安全・安心な花火大会開催の可否等について検討した結果、令和2年度の開催を中止することとし、世田谷区と同日発表しました。)
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード 40902040	事務事業名 競輪場整備事業				政策体系別計画の記載 有							
担当	組織コード 286100	所属名 経済労働局公営事業部総務課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等) 施設の管理・運営	分類2(内部事務)								
	—	—			—								
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 富士見周辺地区整備基本計画、川崎競輪場再整備基本計画												
総合計画と連携する計画等	産業振興プラン、スポーツ推進計画、新・かわさき観光振興プラン												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名									
	取組2(9)特別会計の健全化			1 競輪事業特別会計の健全化に向けた取組の推進									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度					
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	226,899	501,906	437,901	72,302	50,135	288,702	235,581		388,702			
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	—	0	0		0		
		市債	0	—	0	0	—	0	0		0		
		その他特財	226,899	—	437,901	72,302	—	288,702	235,581		388,702		
		一般財源	0	—	0	0	—	0	0		0		
人件費※ B	11,350	11,350	7,561	7,561	7,561	0	0	0	0	0	0		
総コスト(A+B)	238,249	513,256	445,462	79,863	57,696	288,702	235,581	0	388,702	0	0		
人工(単位:人)	1.34		0.89										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策 戦略的なシティプロモーション 施策 川崎の特性を活かした観光の振興 直接目標 市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	競輪場施設
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	「公園との一体感を感じられる空間づくり」や「持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり」をメインコンセプトとした、施設の整備を行います。
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	川崎競輪場施設の長寿命化等のための整備に取り組みます。 既存施設の設備更新工事、維持修繕工事を実施します。 施設整備・維持管理に必要な競輪施設等整備事業基金の積立・取崩を計画的に実施します。
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①川崎競輪場施設の再整備の推進に向けた東サイドスタンド除却とバンク大改修の同時実施についての研究及び調査 ②老朽化設備の更新工事及び維持修繕工事の実施
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①については、先進事例である他都市の視察や関係局との調整を踏まえ東サイドスタンド除却とバンク大改修の同時実施に係る基本構想素案を策定しました。 ②については、安定した競輪開催のために必要となる競輪場電気設備等の更新及び小向会館のボイラー設備等の修繕を実施しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	説明	目標					
		実績			—	—	
2	説明	目標					
		実績			—	—	
3	説明	目標					
		実績			—	—	
4	説明	目標					
		実績			—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	趣味やレジャーの多様化が進んでいる中で、入場者数が減少傾向にあります。
事業の見直し・改善内容 <small>具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 H27年度: 競輪事業特別会計全体の収支を勘案し、基金の範囲内で整備事業を実施できるよう工事の平準化を図りました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由 競輪場と公園との一体感を感じられる空間づくり、競輪事業が持続可能な施設づくりを行うことにより、富士見周辺地区の魅力を高め、まちづくりに貢献しているため本事業が必要となります。		
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由 老朽化設備の更新工事及び維持修繕工事の実施により、お客様の観戦環境の向上を図ります。また、コンパクト化した競輪場において餃子祭り等のイベントを実施することにより、公園との一体感を感じられる空間づくりを実現できています。		
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由 施設の収容人員や投票所の最適化を図る必要があります。また、基金の範囲内で、今後の競輪場の整備の推進や安定的な競輪開催に向けた施設の整備・補修を行うため、仕様の見直しや整備方法の検討を行いながら事業を進める必要があります。		
施策への貢献度	貢献度区分 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 競輪場内の座席の改修や喫煙所の改修等を実施し、お客様の観戦環境の向上を図るとともに「公園との一体感を感じられる空間づくり」の実現に向け、餃子祭りや富士通スタジアムと連携したランニングイベントの実施等により富士見公園へ多数の新規来場者を呼び込むことができ、施策への貢献はありました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分 I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 今後の競輪場整備に向け、時代の変化(やコロナウイルス感染症の影響)に対応しながら、様々な状況を踏まえて、引き続き、基金の範囲内で効果的・効率的な施設となるよう、関係局や関係者等と調整を図り、着工順や仕様の見直し、整備方法等の検討を行いながら事業を進める必要があります。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつこ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載								
	40902050	競輪等開催・運営事業			有								
担当	組織コード	所属名											
	286300	経済労働局公営事業部業務課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	—	—		その他	—								
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 自転車競技法												
総合計画と連携する計画等	産業振興プラン,新・かわさき観光振興プラン												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名									
	取組2(9)特別会計の健全化			1 競輪事業特別会計の健全化に向けた取組の推進									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度			R1年度			R2年度			R3年度		
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	19,495,878	17,554,724	19,495,878	18,246,957	16,720,225	19,495,878	23,729,569		19,495,878			
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	—	0	0		0		
		市債	0	—	0	0	—	0	0		0		
		その他特財	19,495,878	—	19,495,878	18,246,957	—	19,495,878	23,729,569		19,495,878		
		一般財源	0	—	0	0	—	0	0		0		
人件費※ B	103,842	103,842	91,417	91,417	91,417	0	0	0	0	0	0		
総コスト(A+B)	19,599,720	17,658,566	19,587,295	18,338,374	16,811,642	19,495,878	23,729,569	0	19,495,878	0	0		
人工(単位:人)	12.26			10.76									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	戦略的なシティプロモーション
	施策	川崎の特性を活かした観光の振興
	直接目標	市内への集客及び滞在を増加させる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	競輪場施設、競輪場来場者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	競輪の効率的な事業運営を推進し、事業の収益性を高めることにより、安定的に一般会計への繰出を行います。競輪の魅力アピールすることで誰もが楽しめる競輪場を目指します。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	平成29年度から導入した包括的な業務委託により、柔軟かつ効果的・効率的な事業運営によるトータルコストの削減、ファンサービスの向上などを通じた来場者数・車券売上上の増進、既存施設の有効活用による収入増、市民利用・多目的利用の一層の推進を図り、競輪事業の効果的・効率的な実施及び市民に親しまれる競輪場の確立を目指します。また、特別競輪の誘致活動を推進します。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	① 包括的な業務委託の導入による柔軟かつ効果的・効率的な事業運営 ② 競輪初心者教室やガールズ競輪、観戦ツアー等の開催による新規ファン獲得に向けた取組の推進 ③ 特別競輪の誘致活動の展開 ④ 収益向上を目指した企画レースや協賛レース、ミッドナイト競輪等の開催による活性化策の推進 ⑤ こども向けイベントや自転車イベント等の開催を通じた、市民に親しまれる競輪場に向けた取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標通り達成できました。 ① 包括的な業務委託により開設規模の適正化や土日を利用して各種イベントを開催しサービス面での充実を図り効果的な運営を行いました。 ② 初心者教室やガールズ競輪を開催するほか、SNSを活用して動画配信を行い新規ファン獲得につなげることができました。 ③ 令和3年度の特別競輪開催に向け、開催申請資料の提出や競輪関係団体に対しPR活動を行いました。 ④ 各種協賛レースの開催や競輪場を他市に貸し出してミッドナイト競輪を開催させ、収益向上に繋がりました。 ⑤ 競輪場を使用してのど自慢大会や子供向けイベント、自転車試走会等を行い、市民に親しまれる競輪場に向けた取組を行いました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1 成果指標	一般会計への繰出金	目標	2.5	2.5	2.5	2.5	億円
	説明 一般会計への繰出額を増加させるために様々な売上向上策や経費削減策に取り組む必要があります。	実績	2.8	3.1	—	—	
2	説明	目標					
		実績			—	—	
3	説明	目標					
		実績			—	—	
4	説明	目標					
		実績			—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	趣味やレジャーの多様化が進んでいますが、ミッドナイト競輪等新たな開催形態での競輪実施により、車券売上額は上向いています。全国競輪施行者協議会の通知等により相談窓口設置等のギャンブル等依存症対策に取り組んでいますが、今後もIR整備に係る国等の動向を注視する必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	H29年度: 全国競輪施行者協議会の通知等により相談窓口設置等様々なギャンブル等依存症対策を実施しました。 H28年度: 包括的な業務委託の導入に向けた準備(仕様書・募集要項等の作成、事業者の公募、選定、契約に向けた調整等)を行い、受託事業者と基本協定を締結いたしました。 H27年度: 民間/ウハウを活用して、安定的な競輪事業の確立や市民に親しまれる競輪場づくりを推進するため、競輪開催業務をはじめとする多数の業務を一括して委託する包括的な業務委託導入の検討を行いました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	競輪事業は、都道府県及び総務大臣が指定する市町村だけが実施するものであり、競輪事業の収益は、一般会計に繰り出し、義務教育施設整備事業等に充当されています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	環境整備等の取組や包括的な業務委託の導入をはじめ、効率的な競輪開催の実施により、一般会計へ安定的な繰出しを行っています。今後も効果的・効率的な運営を行い安定的な繰出しができるように努めていきます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	平成29年度から包括的な業務委託を導入したことにより、効率的な業務運営を行っていますが、引き続き業務の見直しを行い、改善を図っていきます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	競輪事業は、昭和24年の開設以来平成30年度までに1,280億円を超える金額を一般会計に繰り出しており、令和元年度も3.1億円繰り出しました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 <small>(次年度計画上の記載)</small>	
	変更後 <small>(上記計画上の記載に対する変更点)</small>	
	変更の理由	

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつこ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)